

こうしたエンパワーメントは、意識的側面のみ、経済的側面のみ、といった単独で生じるものだけではなく、図3-6のように重なり合い、相乗効果を生み出すことがある。

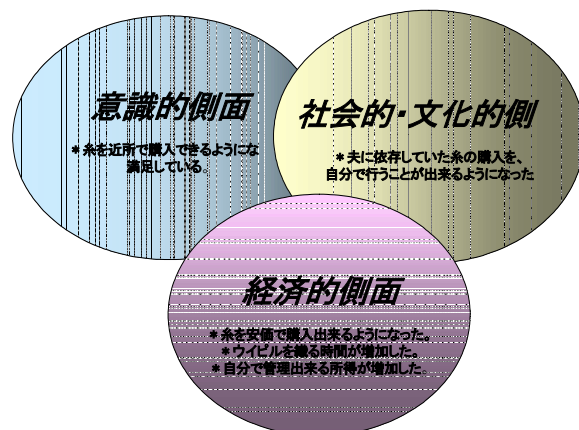


図3-6 個人のエンパワーメントの諸相(シェアツェンバホ)
出典: 現地調査より藤掛洋子作成(2004. 9.5)版をもとに作成

BOX3-3は、縫製事業により近隣でワイピルのための糸を購入できるようになったことにより、経済的な側面のエンパワーメント(バス代の節約)と「近隣で購入できることによる安心の獲得」という、意識的な側面からのエンパワーメント(以下意識的エンパワーメント)が同時に生じた例である。

BOX3-3 縫製事業(糸屋の利用)によって女性がエンパワーメントされた事例(女性個人のエンパワーメントの事例2 グアテマラ)

女性グループによる糸屋が開設される以前は、ワイピル(織物)作成のための糸は、バスで20分のところにある近隣の街のパツンまで行かなければならなかった。パツンに行くにはお金も時間もかかるため、月に2回程しか行くことができなかった。そのため、縫製事業が始まる以前は糸が突然なくなっても補充ができなかった。今は、同じ村内の徒歩圏内に糸屋ができたことで、必要な時にいつでも購入できるという安心感が得られた。

(縫製グループメンバー 30代)

これまでの事例のように、地域社会開発事業へ参加したことによる個人のエンパワーメントは、事業が結果として成功するかどうかに関わらずその参加の過程においてよく見られる(例として、縫製事業の現状について記載したBOX3-10を参照のこと)。

また、本件の縫製事業によって実施されている糸屋の利用は縫製グループメンバーに限られていないため、縫製グループに登録されていない地区内の女性や他の地区の女性も、糸屋の利用を通じてエンパワーメントが発生した。例えば、BOX3-4の事例は住民集会や縫製事業などプロジェクトの非参加者であるが、プロジェクトによって始められた糸屋の利用により、便利さや低価格での糸の入手による経済的エンパワーメントが発生している。それにより、夫との関係性が変化しつつあることが述べられている。